# 資料館インフォメーション

## 語り部講話

10名以上の団体で資料館を見学される場合は、「語り部」の方から貴重な体験談を聴くことができます。（＊事前申込が必要で、先着順となります）
また、10月から一定の条件のもとで、個人の方々が団体と一緒に講話をお聴きいただけるようになりました。
詳しくは、資料館のホームページをご覧ください。

## ガイダンス映像上映会

土・日、祝日は、2階『交流学習ルーム』において、イタイイタイ病をわかりやすく解説したガイダンス映像（約15分間）の上映会を行っています。

上映会（1日3回）①10:50～　②14:00～　③15:30～
＊団体見学と重なった場合は中止となります

また、2階『資料閲覧室』のパソコンでもご覧いただけます。
（＊「一般向け」「子ども向け」の2種類があります）

## メールマガジン【登録者募集中】

月に1回程度、資料館の最新情報や出来事、事業の紹介などをお伝えするメールマガジンを配信しています。
配信を希望される方は、次のメールアドレスあてにメールを送信してください。【mlhope@itaiitai-dis.jp】

## 資料館の動き

### これまでの出来事

| | |
|---|---|
| 4月20日（金） | 報道機関内覧会の開催 |
| 26日（木） | イタイイタイ病の副読本完成（県内の全小学5年生に配布） |
| 29日（日） | 資料館オープン、開館式・記念シンポジウムの開催 |
| 5月18日（金） | 語り部講話スタート |
| 6月 5日（火） | 海外から初の団体来館（韓国：下安北中学校） |
| 17日（日） | 入館者1万人達成 |
| 20日（水） | メールマガジン第1号配信 |
| 8月3日（金）、4日（土） | 夏休み自由研究講座 |
| 16日（木） | 入館者2万人達成 |
| 23日（木） | イタイイタイ病を学ぶ日帰りバスツアー |

### これからの行事予定

| | |
|---|---|
| 10月 6日（土） | 語り部による伝承会（13:30～17:00） |
| 12月頃 | 小学校教員向けの研修会 |
| 2月頃 | イタイイタイ病を伝える県民フォーラム（仮称） |

## 課外学習サポート事業【利用校募集中】

より多くの小中高生にイタイイタイ病の恐ろしさやその克服の歴史を学んでいただけるよう、**学校から資料館までの「無料送迎バス」を提供する課外学習サポート事業**（環境省委託）**を実施しています。**
小中学校と高校を対象に、原則1日1校まで先着順にて受け付けています。
詳しくは、資料館のホームページをご覧ください。

## ホームページを開設しています

イタイイタイ病の恐ろしさや様々な困難を克服してきた取組み、資料館の活動概要などを紹介するホームページを開設しています。
国内外に広く情報発信するため、5ヶ国語（日・英・中・韓・ロ）に対応しています。

「バーチャル展示室」では、資料館の展示室を実際に見学しているような雰囲気で、5つのテーマに沿ってイタイイタイ病を学ぶことができます。

発　行／富山県立イタイイタイ病資料館
（平成24年9月発行）


〒939－8224 富山県富山市友杉151番地（とやま健康パーク内）
電　話▶076-428-0830　ＦＡＸ▶076-428-0833
ＵＲＬ▶http://itaiitai-dis.jp
富山県





富山県立イタイイタイ病資料館
Toyama Prefectural Itai-itai Disease Museum


# 資料館だより


創刊号　2012年　秋　号


contents


【特集1】いよいよ資料館オープン… 2
子ども向けイベント…… 2
【特集2】入館状況…… 3
語り部コーナー…… 3
資料館インフォメーション…… 4

## 「資料館だより」の創刊にあたって


富山県立イタイイタイ病資料館
館長　鏡森定信

富山県は豊かで美しい自然に囲まれており、「水・みどり・いのち」の循環があります。神通川流域に甚大な被害を及ぼしたイタイイタイ病は、そんな循環の要となる「水」が汚染されたことで引き起こされました。

これまで先人の努力により、多くの課題を解決してきましたが、イタイイタイ病のような公害を二度と繰り返さないため、その教訓を後世にしっかりと引き継いでいかなければなりません。

このため、資料館では、「イタイイタイ病の恐ろしさ」を知り、「克服の歴史」を学び、県民一人ひとりが「環境と健康を大切にするライフスタイルの確立や地域づくり」に取り組むことにつながる未来指向型の施設をめざしています。

来館のたびに、環境と健康について新たな学びにつながるような取組みを積極的に行います。

年2回（春・秋）発行するこの「資料館だより」でも、そうした活動を広くお伝えしていきます。

挨拶する鏡森館長

# 特集1 いよいよ資料館オープン
# イタイイタイ病の教訓を後世に継承します

## 開館式 盛大にセレモニーを開催

平成24年4月29日、富山県立イタイイタイ病資料館がオープンしました。開館式には、地元の国会議員をはじめ、関係者約150名の方々が出席されました。石井知事は、「貴重な資料や教訓を後世に継承するとともに、困難を克服した先人の英知を未来につなぎ、環境と健康を大切にする県づくりを進めます」と挨拶。続いて、来賓である環境省の南川秀樹事務次官や神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会の髙木勲寛代表などから祝辞をいただきました。

式典後、テープカットと施設の除幕が行われ、外観にデザインされた雄大な立山連峰がくっきりと浮かび上がりました。

## 記念シンポジウム 資料館に大きな期待が寄せられました

開館式終了後の記念シンポジウムでは、石井知事からの挨拶、鏡森館長による講演に続いて、パネルディスカッションが行われました。資料館顧問の谷 修一氏（国際医療福祉大学名誉学長）がコーディネーターを務められ、4名のパネリストが開館を迎えた思いやイタイイタイ病の教訓を未来につなぐための方策などについて話し合いました。

被害者団体の髙木勲寛代表は、「資料館の開館は私たちにとって歴史に残る大きな1ページ。イタイイタイ病は終わったわけではないが、公害に悩む多くの地域の参考にしてほしい」と述べられました。

イタイイタイ病対策協議会の初代会長・小松義久氏の次女である小松雅子さんからは、「教訓を語り継ぐことが生きている私たちの使命だと亡くなった父から教わった。資料館に強い思いを寄せていた父に『私は語り部として思いをつなげていきます』と伝えたい」と話されました。

イタイイタイ病の副読本を監修された富山国際大学の水上義行教授からは、「学校教育でイタイイタイ病は社会科ではなく、命の教育や総合的学習で学ぶべき。住民、原因企業、行政がともになって環境被害を克服してきた歴史は世界に誇れるものであり、富山にはすばらしい教育の場があると思う」という意見が出されました。

イタイイタイ病の教訓を未来へつないでいくため、資料館に大きな期待が寄せられていることを改めて実感した鏡森館長が資料館づくりの決意を述べて締めくくりました。

## 子ども向けイベント 夏休み 子どもたちがイタイイタイ病を学びました

### 夏休み自由研究講座 「イタイイタイ病を学ぼう」

自由研究のテーマに「イタイイタイ病」を取り上げてもらい、子どもたちに詳しく調べてもらおうと企画しました。小学校高学年の親子連れなど22名が参加。映像やワークシートなどでイタイイタイ病について学習した後、展示室の5つのコーナーごとに、語り部の髙木良信さんから体験談を交えた解説を聞きました。長年にわたってイタイイタイ病に深く関わってこられた髙木さんの貴重なお話に、参加者は熱心にメモをとっていました。

また、汚れた水をきれいにする実験などを行い、イタイイタイ病の発生に大きく関係した「水」についても学びました。

### イタイイタイ病を学ぶ日帰りバスツアー

東京からの１組の参加もあわせ、6組12名の親子連れらが集合しました。

当日は、資料館でイタイイタイ病の概要を学んだ後、バスに乗車し、イタイイタイ病の原因であるカドミウムが排出された神岡鉱山に向かいました。途中、復元工事で汚染田からよみがえった水田の姿を実際に見て、昼前には神岡鉱業に到着。「排水管理センター」と直径30mもある排水処理施設「シックナー」を見学し、午後からは、鉱石のくずを溜めて水分と固形分に分離する「和佐保たい積場」で施設の説明を聞きました。

**参加者の声**

一般の方が行けない所を親子で見学でき、しっかり学べました。
（40歳代・母親）

原因となった場所を実際に見学し、現在は環境保全にすごく努力されている様子を知ることができました。自由研究でまとめて、みんなに知らせたいです。
（小学5年生・男子）



# 特集2 入館状況
# 2万5千人を超える方が来館！「学び」が広がっています

開館以来、県内をはじめ、県外や国外からも多くの方が資料館を訪れています。これまで2万5千人を超える方々が来館。修学旅行や課外学習での利用もあり、イタイイタイ病についての「学び」が広がっています。

## 【5月】東京の中学生が修学旅行を利用して学習

修学旅行を利用して、筑波大学附属駒場中学校の生徒5名が訪れ、「イタイイタイ病の今」という研究テーマに沿い学習しました。語り部講話や映像・資料を通して、「授業では教わらない多くのことが学べた」という声があり、イタイイタイ病の特徴や現在の状況などについての理解を深めていました。

## 【6月】韓国から60名を超える中学生が来館

海外から初の団体として、韓国の中学校が来館。60名を超える生徒が、韓国語の展示ガイドや音声ガイダンスを利用して見学し、通訳を介して、語り部講話を聴きました。「こんなにも恐ろしい病気だと知らなかった」という感想が聞かれ、言語が違っても、公害の恐ろしさが十分伝わることが確認できました。

## 無料送迎バスで課外学習をサポート

学校に無料送迎バスを出す「課外学習サポート事業」を利用して訪れる子どもたちも増えています。この事業では、訪れた小中高生にイタイイタイ病についてしっかり学習してもらい、その成果などを調査しています。これまでの調査で、子どもたちの理解が深まったこととして、「イタイイタイ病患者の骨の状態」が多く、印象に残ったこととして、「公害の恐ろしさ、環境と健康の大切さ」をあげています。

**入館者数の推移（平成２４年４月２９日開館）**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 5,000人目 | 平成24年 | 5月 6日 | （ 8日目） |
| 10,000人目 | 〃 | 6月17日 | （ 44日目） |
| 15,000人目 | 〃 | 7月19日 | （ 71日目） |
| 20,000人目 | 〃 | 8月16日 | （ 96日目） |
| 25,000人目 | 〃 | 9月21日 | （127日目） |

9月23日現在の来館者数
総数25,241人　団体利用4,155人（163団体）
うち語り部講話聴講2,085人（70団体）

## イタイイタイ病を語り継ぐ 語り部コーナー

イタイイタイ病に関する貴重な体験談をお話いただいている「語り部」さんを紹介するコーナー。１回目は、イタイイタイ病対策協議会の設立当初から副会長を務められる髙木良信さんです。

髙木さんのお母さんは、イタイイタイ病患者で、1955（昭和30）年に亡くなられました。裁判闘争はもちろん、現在も続く発生源対策などについて、詳しい内容で細かな数値までも原稿なしで語られる姿に、髙木さんの運動への執念を感じ取ることができます。

### 『私の抱負』髙木良信（たかぎりょうしん）さん（81歳）

人が死ぬときは、『痛い痛い』と言いながら寝たきりになるものだと思っていました。だから、子どものころ、自分の母親や近所の年寄りが動けなくなる姿を見ても何の不思議も感じませんでした。病気の原因が明らかになってからは、三井金属鉱業に補償を求めるため、「イタイイタイ病対策協議会」を立ち上げました。当初から、運動に参加し、裁判闘争にも携わってきました。

「語り部」の中には、患者を看病された経験のある方はおられますが、裁判を含めた克服の歴史を実体験で語れるのは私しかいません。汚染農地の復元が完了したとはいえ、上流に神岡鉱山がある限り発生源の監視を続けなければなりません。少しでも被害の実態を風化させないよう若い世代に語り続けていきます。

現在、髙木さんのほか、次の「語り部」さんが活動されています。

青木有明さん、青島明生さん、大上久彦さん、小松雅子さん、柞山八郎さん、若林カズ子さん
（五十音順）

～今後、このコーナーで順次、紹介していきます～

### 語り部講話の感想

ガイダンス映像よりもこわさが伝わりました。　（小学生・女子）

発生した年代を生きてきた人の言葉は、とても重みがあると感じました。　（中学生・男子）

ほとんどの年月をイタイイタイ病と闘う人生だったのだろう。親の看病と家事、それだけでもつらい人生なのに、裁判で闘われた話は、誇りをもって語れることだろうと思います。
（50歳代・女性）

長い期間いろいろな方面でご苦労されてこられたことにとても胸が熱くなりました。このお話は忘れられてはいけません。ぜひ後世に受け継いでいって欲しいです。そしてまた、新たな汚染が生じないよう、住民の方々の健康を守られるよう切に願います。　（60歳代・男性）